

# 0. はじめに



まちを歩いていると、しばしば擁壁から顔を覗かせる植物や建築をのみ込む植物、使われなくなった扉や階段など、人工物と自然、時の流れが関係し合い、存在している様子を目にします。まるでその場だけ、人間が整備してきた環境に振り残されたかのような、自然の流れのままに形成された不思議な風景が現れます。

本計画では“生きられた描写”と定義して扱っていく

これらの風景は、雨や風などの気候、人間や生物の生活、時の流れなど多様な要因が蓄積することによる痕跡です。植物や建築のエレメントなどは人工物や人間の行為に抑制されながらも力強く存在している様であり、人間の意図とは裏腹にとても生き生きしているように見えます。

## 1. 現状

### 1-1. 都市環境



現代における街や建築は、一般的に人間本位な作り方がされてきました。きれいに舗装された路面、安全性の観点からコンクリートで固められた水路や擁壁、機能が詰め込まれた商品としての建築群が街を形成しています。効率や利便性が優先される現代社会において、「建築空間」ではなく「機能・目的」が価値と捉えられることが多いと感じます。

### 1-2. 建築の構成



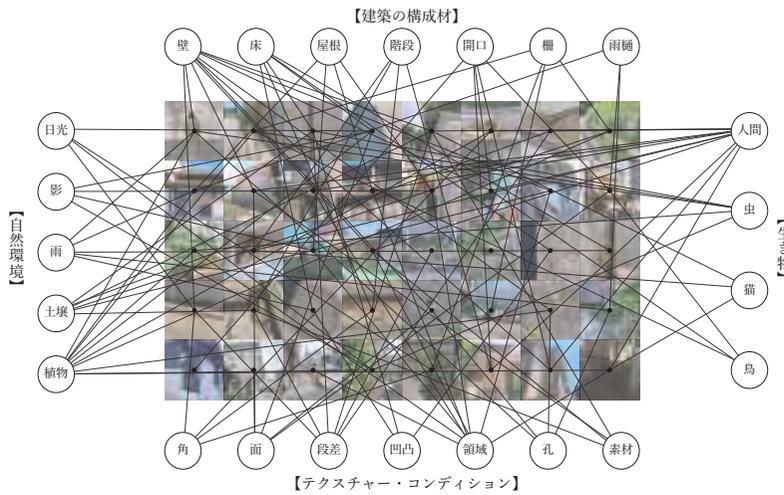
出典：家づくりの原点 住み手と設計者の広場

一般的な住宅をとると、機能や行為から部屋が構成され居住性やプライバシーといった秩序から空間が構成されます。現代の都市環境では、きれいに区画整備された敷地に対し、部屋の配置などで変化をつける効率的な建て方が多くされ、建物それぞれが完結しています。効率や居住性には問題はありませんが、特定の目的以外の事象が介入する余地は少ないと感じます。

## 3. 調査・分析

### 3-1. 生きられた描写に見られる要素の抽出

フィールドワークを行い、現代の都市環境に散らばる「生きられた描写」を収集し、痕跡を形成する要素を抽出するために多様な他者の関係を【建築の構成材】、【テクスチャーやコンディション】などの静的要因、【植物や気候などの自然環境】、【人間や生物】などの動的要因に解体し図式化します。



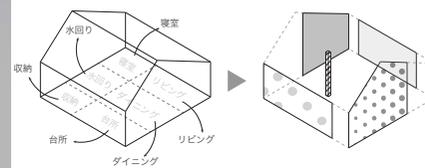
# 人間のためでもある建築

## Architecture not only for humans



## 2. 仮説

### 2-1. 部分の集合としての建築

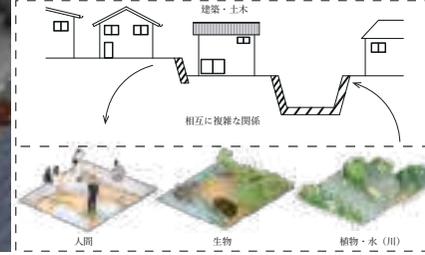


建築は、室の集合として構成され、壁や床、柱などの部材の集合で室ができています。機能や行為に沿った室の作り方がされる現状に対し、本計画では、建築と機能を切り離して考えます。“室”として完結させるのではなく、それらを構成する部分それぞれを異なる秩序から設計し、それらの集合として建築を構成することで機能や行為にとらわれない建築のあり方が生まれると考えました。

### 2-2. 生きられた描写の読み替え



生きられた描写は異なる要因が複雑に関係し合ったものであり、人間の意図とは異なる出来事や、自然の流れの重なりによる痕跡です。関係し合うものそれぞれが個別の理由から存在しており、描写に表れる情報を読み替えますと、あるオブジェクトは本来の目的だけではなく異なる意味を担っていると感じることがあります。つまり、異なる意味を持つ要素が集合することで解釈の可能性が広がると考えました。描写の読み替えから“生きられた描写”には、多様な解釈の広がりを持つと仮定を立て、建築構成材へと昇華するために、分析を行います。



### 3-2. 生きられた描写の再解釈

図式化により得られた要素から、それらの関係性を書き出し整理することで、描写に見られる様子を再解釈します。描写の再解釈をすることで、部分の設計をする手がかりとします。

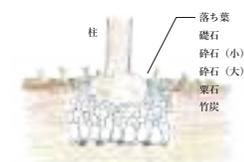


# 4. 提案

## 4-1. 人間のためでもある建築

計画敷地は、台地と谷状の地形との境にある住宅街の一角に位置する。まちの表層がアスファルトなどで固く覆われた現状に対し、広く環境の循環を促す一歩として、大地との接地面や、素材、外構、境界を見直し、人間以外の他者にとっての豊かさも生み出す。

石基礎



建築を支える大地にとって良質な環境とするため、接地面を開放する。水と空気が循環することで、菌糸と植物の根によって地盤が安定し、自然と一体的な建築の立ち方を実現する。

通気基礎



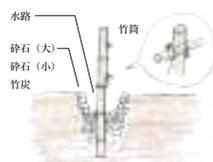
建築基礎部分をコンクリートで埋めるという解答ではなく、通気口を設ける。建築を支えるという性能を担保しながら、地中に水と空気の通り道を作ることによって地中にとって良好な環境を築く。

ガラ積み / 木組擁壁



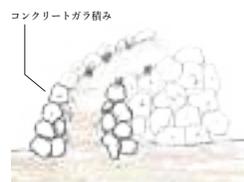
コンクリートガラや木材を組み、表面を形成する。植物の根が絡むことで強度が増し、造作と自然とが一体となり、時の流れと共にまちの風景を作り出す。表面に現れる隙間が、小さな生物たちの住処となる。

竹垣水路



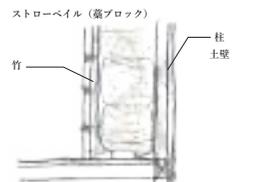
コンクリートブロックや線材の多い柵やフェンスではなく竹などの有機物で境界を形成する。側溝に杭を刺すことで落ち葉や枝が絡み、水の流れの勢いを弱めるとともに、集まった植物は小さな生物の拠り所となる。

土塁スロープ



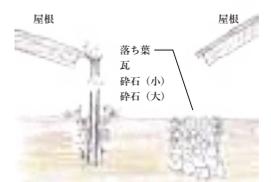
古くから境界に用いられた土塁を、単なる境界としてのツールだけでなく、地形に沿った動線空間として計画する。自然の流れと共に風景になり、人の居場所となり、境界を和らげる。

ストローベイル工法



ストローベイル工法(藁のブロックを積み、土を塗って壁を形成)を採用することで、部分的に自然に還る、循環が可能な建築になる。藁による壁は、断熱・蓄熱・調湿性能が高く、自然素材で良質な内部環境を生む。

土樋 / 雨落ち



雨樋ではなく土樋。土壌を立体的に連続させ建築と自然を一体的に考える。コンクリートガラや瓦など、建材を利用しながら雨落ちを作ることによって、流れた雨水が地中へ浸透するよう計画。

雨樋架構



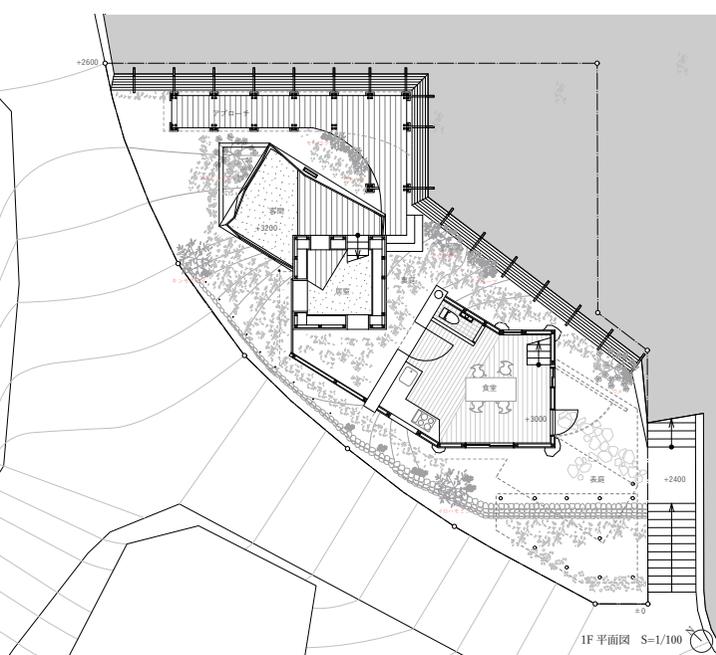
一般的に雨樋は、屋根から流れ落ちる雨水を地面に落とすための部材であるが、外部への単なる排水機能だけではなく、架構として設けることで居場所としてまちに開かれる。



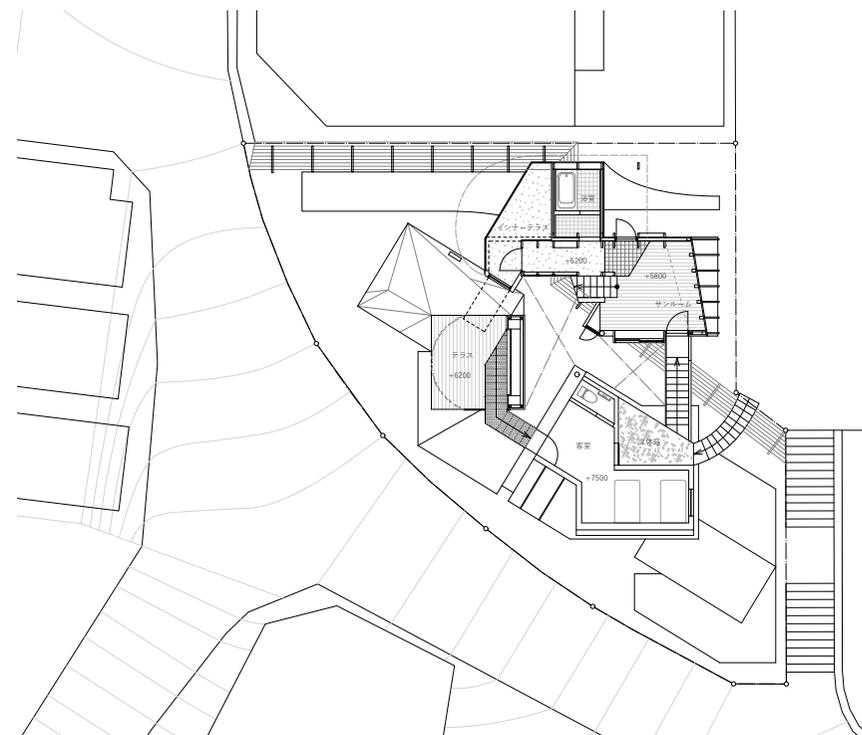
東京都豊島区南大塚1丁目  
敷地面積：266.6 m<sup>2</sup>  
延べ床面積：154 m<sup>2</sup>  
建蔽率：57%  
容積率：54%  
用途地域：第一種中高層住居専用地域

配置図 S=1/200

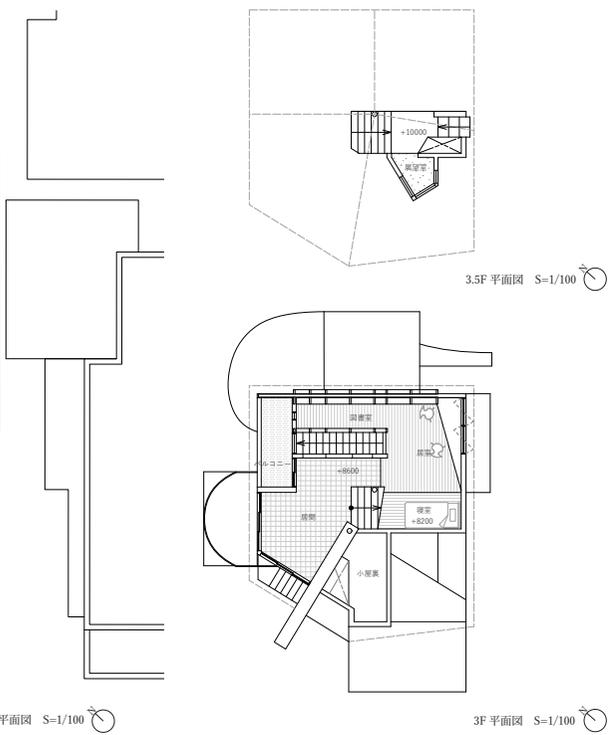
## 4-2. 設計



1F 平面図 S=1/100



2F 平面図 S=1/100



3F 平面図 S=1/100

3.5F 平面図 S=1/100



D. 静かに外部を感じるインナーテラス



C. 異なる家型を演出する LVL フレーム



B. 多様な役割を担うトラス



L. 飛び出し階段



M. 内外で異なる意味を生む R 壁



N. 多様な要素が関係し、内部へ柔らかく光を届ける



E. 湾曲した中空スラブ

A 敷地内に散らばる多様なエレメントにどこか一体感を感じさせる大きく建築を包み込む屋根。妻入面、平入面双方が現れる方形屋根とすることで多様な表情を見せると共に住宅街のボリューム感に馴染む計画。

B 床、階段を吊る建築の構造材としてだけでなく、手すりや、外気を取り込む小窓としても機能する多義的な役割を担ったトラス。

C 外壁面に付属するように取り付いた LVL フレームは大屋根表面とは異なる屋根方角を見せ、異なる二つの立面が現れる。また水平にわたる横材は、藪や島など、生物の居場所でありながら、長押しのように水平をつなぐ構造的役割を担う。

D メッシュ素材で面が形成された、内部のような外部空間。プライバシーを守りながら外部を感じられる開放的な居場所を演出する。

E 緩やかに湾曲した面が多様な行為を受け入れる。中空スラブを採用することで、その断面は小さな生物の居場所や動線にもなる、多様な他者を受け入れるエレメントになる。

F テラスに組まれた鉄骨には、カーテンが通り、用意された空間ではなく天気や気分が多様な空間を作り出す。人の手が加えられる余地を残し、生活が建築に染み込んでいく。

G 壁面に折れ目をつけることで、雨水の流れ跡が時間の経過とともにファサードデザインとして浮かび上がる。また折れ目をブレースに見立て、構造壁としての機能を持つ。

H 草屋根に付属する縦樋は、雨樋ではなく、土樋。土壌を立体的に連続させ、建築が自然の循環の一部となる計画。屋根表面に植物が繁殖し、季節により異なる表情を見せる。

I 4本の束柱、2本の挟み梁でパーゴラを作り、植物が絡みやすい構成とする。絡まった植物に生物が集まり拠り所となる。また擁壁と梁を共有させることで、土木と建築に一体的な関係を築く。

J 蛇籠を壁として利用する。砂利を敷き詰めることによる圧縮応力から耐力壁としての性能を獲得する。またゼオライトを混ぜることで吸湿、防臭効果のある壁面となる。



H. 人間以外の他者に豊かさを生む草屋根



I. 擁壁と一体的になったパーゴラ



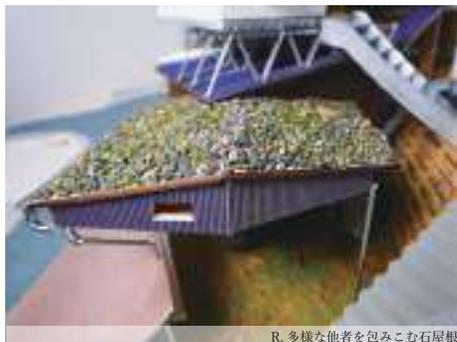
J. 建築の核を担う蛇籠壁



T. 風景を育む石積み



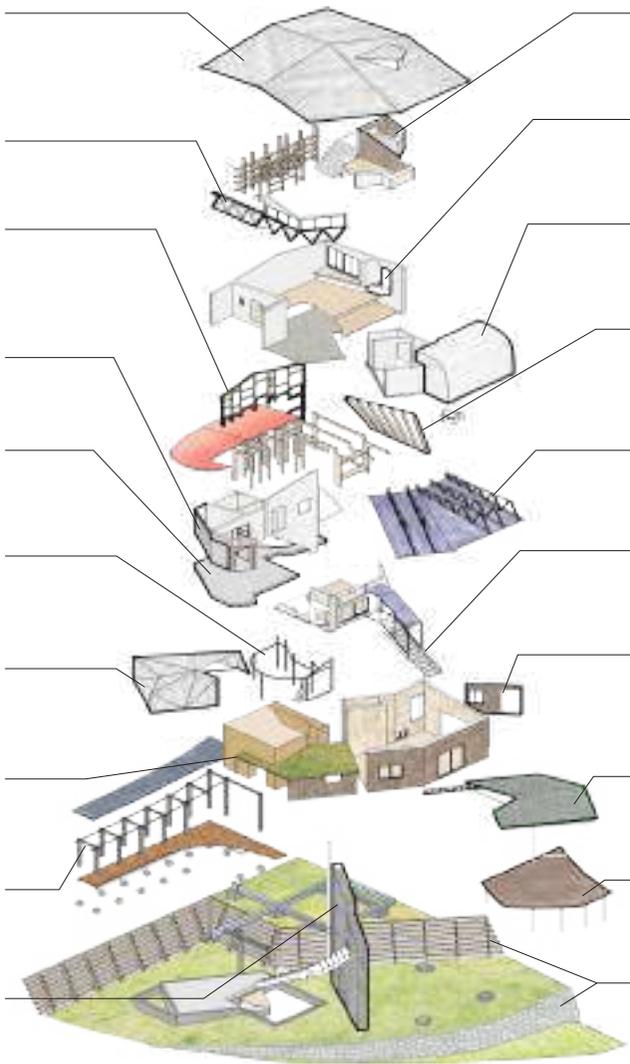
T. 行為を誘う木製擁壁



R. 多様な他者を包みこむ石屋根



S. 雨水の循環と人の居場所を育める築



K 建築最上部に設けられた展望室。入口は低く抑えられているが、滞り抜けることと街並みを見渡すことができる開放的な空間。

L 壁面よりも少し飛び出した階段はサンルームのような小さな居場所となる。外部からは、飛び出した階段が宙に浮いたように見え、内外それぞれ異なる解釈を生む。

M 壁面に R 状に曲げることで内部空間を優しく包み込む。天井を浮かす効果が期待される蟻壁のように屋根に浮遊感を持たせる効果を持つ。

N 傾いたポリカーボネートの壁面に取り付く鋼管に植物が絡み、内部に木漏れ日のような柔らかい光を届ける。上階床面を貫くことで2階では地窓として足元に光を入れる。

O トラス張で床面を浮かすことで、通気、生物が入り込む隙間を作る。下弦材に傾斜をつけ、雨樋としての役割も担う多義性のあるエレメント。

P 見かけは単なる階段だが、桁部分が擁壁を挟んだ建築同士をつなぐブレースの役割を果たし、建築と人の生活を同時に支える。

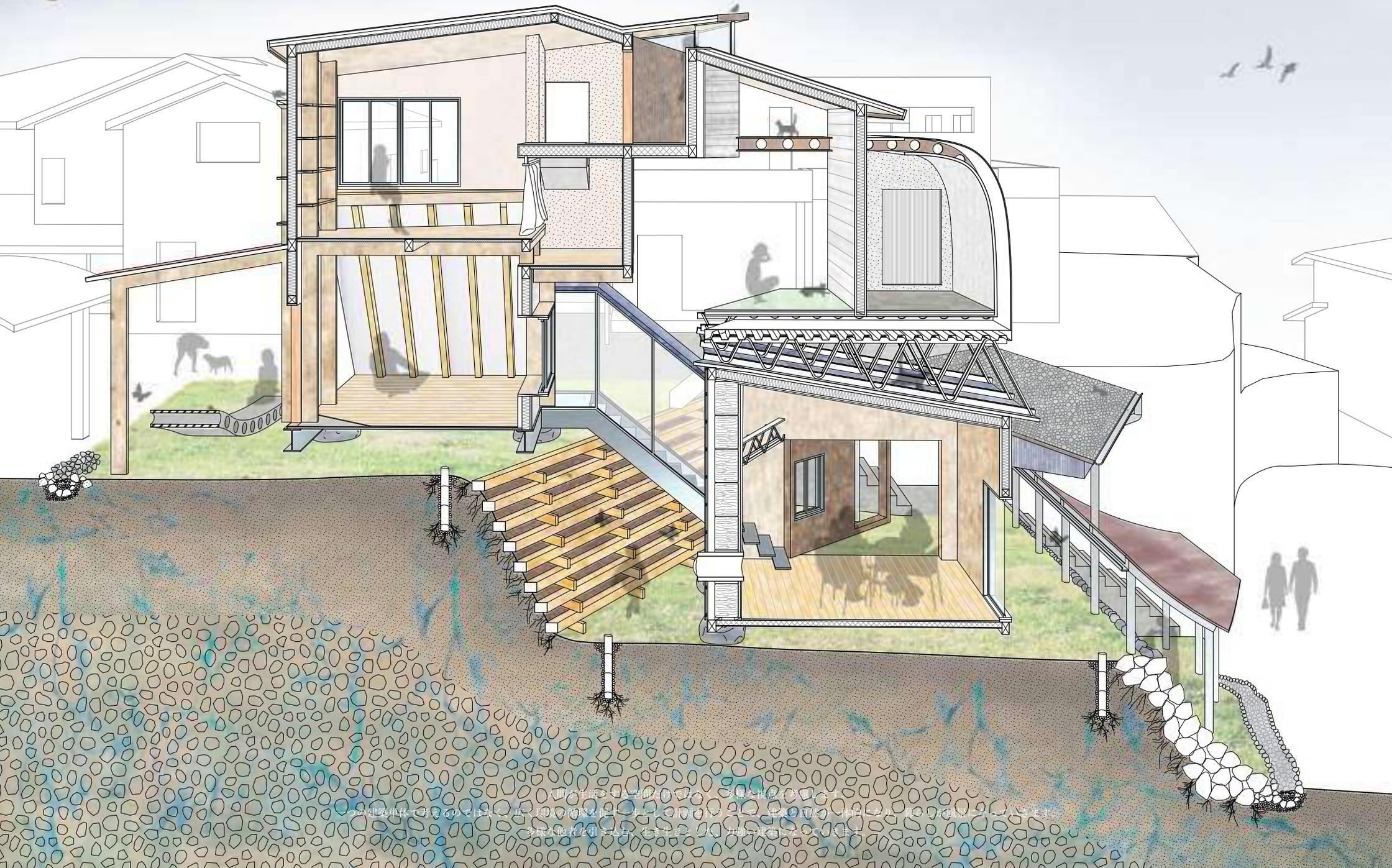
Q 壁ごと大きく開閉させ、状況により内部空間に変化をもたらす。閉鎖時には付属の扉が居住者の動線となり、開放時は内外が連続する大きな居場所として来訪者を迎え入れるまちとの接点。

R 大きな石置き屋根がまちの接点としての場を包み込み、屋根表面では次第に植物が繁殖し、生物たちが集まる多様な他者にとっての拠り所となる。

S 雨樋を架構として空間を形成する。雨水の排水機能だけでなく、接道に対し湾曲した屋根がおりること、地域に開かれた休憩所としての役割も担う。

T 敷地内に生まれる高低差を木組、コンクリートガラ積みで解消することで、植物の根などの自然と一体的に地盤を支える計画。また、木製擁壁は、まちの花壇のような存在であり、人の手が加えられる余地を残し、時間をかけてまちの風景となっていく。

この建築には、多様な隙間が存在します。人間にとっては、単なる隙間かもしれないが、鳥や猫、虫など、小さな生物にとっては心地の良い居場所になるかもしれません。それぞれが異なる理由から導かれた部分の集合で建築を構成するため、不完全さは残るかもしれません。しかし、その不完全さがあらゆる要因を許容する寛容さにつながるのではないのでしょうか。長い時間をかけて、他者からの愛着を受けるような、依代のような建築を提案します。



人間の生活空間を多様な生物が共有できるような建築を提案します。建築単体で考えるのではなく、正しく人間の生活空間と、鳥や猫、虫などの生物の生活空間を共有できるような建築を提案します。多様な生物を共生させるような、依代のような建築を提案します。